



12月15日 地域おこし協力隊委嘱状交付式【市長室】

新たに6人が「地おこ」に委嘱 地域の活性化に期待

令和4年度の釜石市地域おこし協力隊として6人が委嘱されました。地域おこし協力隊は、1年～3年の任期で「地域おこし支援」や「地域協力活動」を行い、その地域への定住・定着を図る取り組みです。



(右から) 清原さん、三科さん、小松さん、由木さん、竹中さん、谷さん

今回委嘱された隊員名簿

氏名	出身地	主な活動内容	協働先・関係先
竹中 伸明	大阪府高槻市	「ラグビーのまち釜石」を全国に広める活動	釜石シーウェイブス RFC 他
小松 圓	宮城県石巻市	甲子柿の生産支援や市民の農業関心度を高める活動	市内生産農家 他
谷 亜央唯	北海道江別市	地域コミュニティの維持や住民の見守り、健康を支える活動	釜石市社会福祉協議会 他
清原 拓磨	岩手県奥州市	「さかなのまち釜石」復活の取り組み	サン・フィッシュ釜石、岩手大学 他
三科 宏輔	神奈川県相模原市	和山高原の遊休農地を活用したソバ栽培や狩猟	(株)川喜、市内生産農家 他
由木 加奈子	埼玉県行田市	高校生と地域をつなぐ取り組み	釜石高校、商工高校 他

12月25日 ジャパンラグビー リーグワン2022-23 ディビジョン2 第2節
釜石シーウェイブス 対 三重ホンダヒート【釜石鶴住居復興スタジアム】

釜石シーウェイブス厳しい船出 観客はチームの奮起に期待

釜石シーウェイブスのホストゲーム開幕戦には、1,167人の観客が来場しました。観客の中には、釜石ドリームパスポートで来場した小中学生も多く見られ、地域全体でチームを応援する雰囲気が感じられました。



試合は、開始早々から三重が勢いに乗り前半だけで6トライを奪いましたが、釜石は前半終了間際に小野キャプテンがトライを奪い後半に期待を持たせました。しかし、後半も三重が先制し、釜石の新戦力のセタ選手がトライし一矢報いるも三重の勢いを止めることはできず、12対75で敗れました。初戦に続き2連敗となり、1月と2月にはビジターで2試合ずつを戦います。3月には、釜石鶴住居復興スタジアムで4連戦が開催されます。チームの復調に期待し、観客は選手に大きな拍手を送りました。

12月28日 釜石応援ふるさと大使委嘱状交付式【市長室】

菊池流帆さんがふるさと大使に

サッカーJ1 ヴィッセル神戸でDFの要として活躍する菊池流帆選手が「釜石応援ふるさと大使」に委嘱されました。



プロとして5年目のシーズンを迎える菊池選手は「チームのリーグ優勝に貢献し、個人としても日本代表に入れるように全力を尽くしたい」とシーズン開幕に向け、闘志を燃やしました。また大使となったことを踏まえ「自分が活躍することで釜石が盛り上がりてくれれば嬉しい。今やっている練習会の規模をもっと大きくして地元に貢献できれば」と地元への思いを語りました。

今シーズンの開幕戦は、2月18日(土)にノエビアスタジアム神戸で行われます。市民一丸となって菊池選手を応援しましょう！

12月3日 「釜石ラーメン物語」完成披露上映会【釜石市民ホール TETTO】

釜石ラーメンが家族の絆を結ぶ

今夏の公開に先立ち、映画の舞台となった釜石で一足早い完成披露上映会が開催され、会場は約800人の観客で満員となりました。

集まった観客は、スクリーンに映る桜が満開の美しい風景や見慣れた街並みに見入り、笑いあり涙ありのストーリーに心を打たれ、上映が終了すると会場からは大きな拍手が沸き起こりました。上映後のトークショーには、今関あきよし監督の他、主演を務めた井桁弘恵(写真左)さんや釜石出身の俳優で本作が映画デビューとなった佐々木琉(写真右)さんらが駆けつけ、撮影のエピソードを紹介しました。井桁さんは、麺の湯切りがかなり上達したと話し会場の笑いを誘いました。



12月4日 SL銀河年内最終運航【釜石駅】

年内最後の鐵の響き

SL銀河の年内の最終運航が行われ、前日に開催された「釜石ラーメン物語完成披露上映会」に合わせ、来釜していた利重剛さんが一日駅長を務めました。利重さんと高橋恒平釜石駅長の出発の合図で、釜石を発ったSL銀河は、釜石と鉄道ファンに来春の再会を誓うかのように大きな汽笛を鳴らし、勢よく走りました。

SL銀河は車両の老朽化などに伴い、今年の春が最後の運行となります。



出発の合図をする利重剛さん(右)

12月9日 釜石こども園キャロリング【市役所玄関前 他】

小さなサンタさんから歌のプレゼント

かまいしこども園の園児約30人がキャロリング(クリスマス合唱歌を歌い歩くこと)を行いました。お手製の星付きのステッキを手にクリスマス衣装で登場した子どもたちが「ジングルベル」「もうびとこぞりて」「第九」の3曲を歌い上げると、通りかかった人も足をとめ一生懸命な歌声に耳を傾けていました。



12月11日 釜石の第九【釜石市民ホール TETTO】

歓喜の歌、高らかに

「釜石の第九」は1978年の開始以来、新年の幸福を祈るイベントとして市民に愛されてきました。コロナ禍により3年ぶり、43回目の開催となる今回は、オーケストラと合唱団合わせて約120人がSaToMansionの「明日を」、ベートーベンの「交響曲第9番」を力強く歌い上げました。特に有名な「歓喜の歌」はアンコールでもらためて披露され、客席からは大喝采が起きました。

